



子どもとメディア 北海道

第41号
2020年
7月発行
今期第1号

「子どもとメディア北海道」のインストラクターのメーリングリストで呼びかけて ZOOM交流会を開いてみました！

- ★ 7月10日（金）の夜9時から、ZOOM交流会を開いてみました。ナカヤは、ZOOMの会議や運動？に参加者として利用したことはあるのですが、ホスト（案内を出したり、当日進行する）は初めてだったので、参加者さんに助けられながらの交流会になりました。
- ☆ 参加者は、以下の9人。久しぶりに画面を通してですがお会い出来て、声を聴けたり、現在の課題やそれについてのお考えを聞くことができ、あっという間の2時間でした。
- ★ もともと「子どもとメディア北海道」の会員同士が会える機会を設定できず、インストラクター養成講座があったから直接顔を合わせてのやり取りができていたのが現状でした。今回のお試しZOOM交流会を、会員対象にぜひ今後も実施したいと考えています。
- ☆ 交流会だけではなく、ネットのメリットを活用して、講演会を実施したりするなども実現していきたいところです。もちろん、コロナがおさまったら、直接お会いしての勉強会や交流会を実施したいですね。
- ★ 今回の交流会の様子を情報誌に掲載する予定はなかったのですが、道内では、講演や授業などの依頼がほとんど来ていない状況のため、交流内容をいくつか紹介して、それぞれの地域の様子などを知っていただけたらと思います。参加して下さったインストラクターのみなさま、情報誌掲載について、事後承諾ですみません。また、きちんとメモをとってなかったため、内容も一部の切り取りになってしまい申し訳ありません。

参加者は・・・

宗谷管内豊富町の池田さんご夫妻・ 十勝管内帯広市の工藤さん

上川管内旭川市の佐藤さん・ 石狩管内札幌市の中川さん・菊地さん

胆振管内厚真町の桜井さん・ 苫小牧市の横山さん・ 白老町の吉原さん・中谷

★ 池田さん

次男（中1）が、好んでプレイするゲーム（スイッチ使用）が「忍者 」。以前は、「スプラトーン」が人気だったが、今は学校でも「忍者 」。知らない人とも通信をする遊びなので心配である。また中学生になって睡眠時間なども大人と同じような生活リズムになっているので、プレイ時間も長くなることが考えられて心配。何か良い対処法がないだろうか？

> 桜井さん

任天堂のゲームで、今大人気な「忍者 」。長時間になってしまうことは十分考えられるので、親が、W i f i が時間になったら切れるようにするなどの管理をするのがいいのでは？

☆ 工藤さん

小学校2年生を担当している。コロナ休業明けの最初の頃は、生活リズムが狂ってしまったのか、寝てしまう子どももいた。今は、マスクの着用のため表情が見えにくかったり、制約がいろいろあるので子ども達もイライラしている。

休業対策としてのオンライン授業も、小学生の場合は親の支援が欠かせないので、どんどん格差がついていくのではないかと心配。宿題を出しても、結局身につけてはいないので（漢字の書き順めちやくちやなど）、学校で教え直すことになっている。やはり、学びと言うのは、誰かと一緒に「いる」ことで身につけていくのだと改めて感じる。

教育委員会、学校などでは、早急にI T環境を整えることに力を尽くしているので、「ネットの時間についてコントロールが必要」などの情報を保護者等に伝えることも言いづらい状況にあるような気がする。

★ 佐藤さん

今春から転勤になり、上川管内の中学校になり、地域により学校により、メディアの影響などについての保護者・学校関係者の意識の違いを感じている。

学校のオンライン学習の状況としては、コロナ以前からI C Tを活用していた教員は、すぐに対応できる面もあるが、その内容はそれほど多くはないのではないかなと思う。例えば、教室内で自分の意見を表明するのに、機器に打ち込んだ内容が先生の操作で全員の意見が見えやすいようになり、調べ学習に活用したり、体育の授業などで映像で撮影した様子をすぐに活用できたり・・・。

東京の荒川区の中学校の事例が良く取り上げられるが、例えば調べ学習なども、紙媒体の資料と併用したり、コミュニケーションしながら利用したりと、目的に合わせて活用していくことが肝になっていたようだ。

これからの教育は「アクティブラーニング」（主体的・対話的な深い学び）が重要と言われるが、「オンラインを活用すれば深い学びができる」というようなことはむしろ難しいのではないかと考える。

☆ 吉原さん

学校ではコロナ休業中でも、児童クラブは開設されていたので、子ども達と近くで触れ合っていた。みなさんの意見にうなづくことが多い。

自分の感覚だが、以前よりも動画視聴やゲームの時間が大幅に長くなってしまったような子どもさんが、遊びや人に対するの興味関心が薄くなってしまい、「めんどくさい」「やりたくない」・・・という状態が多くなったように感じる。

★ 菊地さん

大人である自分は、コロナ禍でも、ネット（オンライン）のおかげで、様々な仕事や活動をこなせている。（会議・おもちゃインストラクターとしての活動・学習など）

ただ子どもの発達段階を考慮した使わせ方は、絶対に必要だと思うので、秋以降に少しずつ依頼が入り始めた講演に向けて、保護者にどのように伝えていったら良いのかななどを、みなさんの意見を参考に学んでいきたい。

☆ 中川さん

テレワークが普通の日常になっているので、コロナ禍で在宅が多かったここ数か月は、ネットのメリットを十分に享受して、社会人スクールなどで、学びやネットワークを深め広げた期間だった。ただ、以前から伝えているが、目への影響が否めず、大人である私がこうなのだから、子どもの特に目への影響については、十分に注視して啓発したい。

>ナカヤから中川さんに質問：ネットのメリットを享受されている中川さん、乱暴な聞き方ですが、何年生くらいからオンラインの学習は効果的だと思いますか？

中川さん：小学校の中学年くらいからでしょうか？ オーストラリア在住の小学校の先生がオンラインで開かれた学びの場で、日本の小学校中学年くらいの子も、伸び伸び自分の意見を話されている様子などに感動しました。

>ナカヤ：なるほど。小学校の低学年までは、五感を十分刺激して、読み書き計算などの基礎学力をつけながら、中学年でローマ字学習くらいから、大人の支援の下、オンラインでの質の良い経験も少しずつ重ねていくということでしょうか・・・あれれ？それなら、小学校の中学年までは、今までとそんなに変わらない気がしますねえ～～。そうあってほしい！

★ 厚真町の取り組みから（横山さん・櫻井さん）

厚真町では、学校でのメディアコントロールの授業を再開した。

小学4年生・5年生に、「休校中のゲームやネットの使用時間」について聞いたところ、3分の1の児童が「増えた」、3分の1の児童が「変わらない」、残りの3分の1は「反応なし」だった。

気になったのが、オンラインゲームをしている子どもの数が多い学年があって、「知らない大人からゲームのアプリをあげるよ」と言われたとか、「年齢制限に合わないゲームだと自分も親も知っているがやっている」との意見もあったことだ。

保護者からの話として、小学校の高学年で、「コロナ休校中にゲームやネットを遅くまでやっていて、生活リズムが完全に崩れてしまい、急激な反抗期のような態度になってしまった。」「夜遅いので朝起きられないことが多く、お腹が痛いと言う」という内容も上がっていて、親としてどうしたらよいのか・・・という悩みもあった。

今年度、厚真町では、少々マンネリ化してきた「ノーゲームデー」を見直して、年に3回（5月・9月・2月）に行うこととした。

また、スローガンを「アウトメディア」ではなくて「メディアコントロール」というように変えて取り組む。その一つとして『メディアコントロールチャレンジ』として、中学校区ごとに、中学校の期末テストの前の4日間を、幼児（子ども園）・小学生・中学生と一緒に「メディアコントロール」にチャレンジする。

現在進行形の取り組みだが、中学生に「主体的にメディアを活用する」取り組みとして、「厚真の特産品を自分たちで取材し、PRの動画を作成し、それをネットにあげて成果を競う」というような取り組みを企業の支援を受けて実施している。

>参加者のみなさんから

ネットを活用した学びやアクションは、発達段階を十分に考慮して、子どもの成長にプラスになる使い方が大事だと改めて感じた。そのためには、これまで同様のメディアコントロール（特に乳幼児期は、なるべく使わない）も必要だし、学童期も低学年と高学年では、使用の内容や頻度も明らかに違うべきだ。ただリスクだけを強調しすぎるのではなく、ネットの有用性や安全な使い方もしっかり身につけるべきで、厚真の中学生の能動的な取り組みは、参考になる。

学校教育（子ども達）には、人と人のふれ合いや直接のコミュニケーションが最も重要なことが、今回のコロナ禍で確認されたのではないだろうか。北海道でもGIGA構想にのっとった「タブレット一人1台」は間違いなく進むので、子どもへの負の影響を押さえて、学びに活かされるよう、今後の啓発活動に活かせるような情報交換をこれかもしていきたい。

子どもとメディア北海道の zoom 交流会を 8 月に開催します！！

気軽な交流です。以下の日時を提案します。

◎ 8 月 28 日（金） 21 時～ 22 時半頃

参加できそうという方は、中谷まで、メールか FB のメッセージ、電話で

8 月 20 日までに申し込んでください。申し込まれた方に、zoom の案内を送

ります。(8 月 25 日頃) 一度も利用したことがない方もサポートしますので、

申し込んでね。 中谷：パソコンメール michie-n@plum.plala.or.jp

電話 090-3773-8349

★ 今回の情報誌は、内容が貧弱ですみません。以下、ナカヤの個人的な情報網？で得た内容をお伝えします。

・私は、「ネット健康問題啓発者養成全国協議会」にも参加しています。先日行われた Zoom の会議で、「ネットポリス鹿児島」の方が、「鹿児島では、4 月以降も学校での啓発活動は盛んで、数十件行われています。方法はいろいろですが（例えば、学校内で zoom で各教室に放映など）、先生方や教育関係者の危機意識が高いことや、子ども達のネット依存度が高いことが要因としてあると思います。」とのことでした。長年に渡って、啓発団体が学校や教育関係者と連携してきた成果でもあるようです。「ある中学校では、コロナ明けに生活リズムを崩した生徒が、10 人以上休み、その多くがネット・ゲームが原因のようだ」とのこと、学校関係者も真剣にならざるを得ない・・・ということでした。

北海道でも、7,8 年前に全道的にアウトメディアの機運が高まったのは、「北海道の小中学生は、ネットやゲームの時間が全国でトップクラス！」との危機感からでした。残念ながら、何かしら子ども達の心や体に負の影響が出てからでないと、社会全体の関心は向かないのかもしれない。

・道内のこれまで継続して呼んでいただいている市町の教育委員会等から、広報への執筆依頼や保護者向けのチラシづくりへのアドバイスを求められています。(蘭越町と白老町の配布物を同封しますね。)

某市教委の方からは、コロナ禍で長時間の SNS 利用や心の問題からか、これまでなかった「不適切な写真」をやり取りするような事例が複数発生してしまった」「からかいのようないじめやケンカが、SNS やゲームで起きている」などの報告もありました。

道内では、今は必死で「どの地域でもいざという時にオンライン学習できる環境を」整えているので、「メディアコントロール」の啓発は難しいかもしれませんが、自分の伝えたいことをしっかり見直して資料を作成するなど、今だからこそできることもあるのではないかと思います。

私も特に「依存」について、学びを深めている日々です。お互い頑張りましょう！